

**江東未来会議**  
**第4分科会（まちづくり・環境分野）**  
**第6回 議事概要**

日時：平成20年1月29日（火）19:00～21:00

場所：文化センター2階 旧区政PRコーナー

参加人数：12人

1. 開会

2. 事務局からの連絡事項

3. 本日のワークショップの進め方について

【事務局より資料説明】

4. ワークショップ

第5回までの討議を踏まえ、事務局で取りまとめた提言書（案）について、全員で検討した。

（1）現状及び問題認識について

①水辺

○参加者

- ・なにが最も重要か、ということについて、水辺については将来像にもある「水辺の多様な機能を活かすまち」が全体を表す言葉として適切だと思う。
- ・水辺というのはいろいろな種類の良さを持っているので、どれか一つと言えない。
- ・江東区には水辺が3種類ある。＊一番整備のゆきとどいた仙台堀川のような親水空間、＊昔からある横十間川や北十間川など運河の水辺、＊埋立て等による海岸線に近い水辺空間。これらはそれぞれ違うので、その利用方法も違うということに触れてほしい。

○渋谷コーディネーター

- ・今回のテーマは区民の提案なので、たとえば港湾事業などは専門的な審議会に任せて良いと思う。また、既に5ページの将来像にも有る程度関連することは記述されている。

○参加者

- ・水辺が3種類あるとして、それぞれ目指すものは何か。もし代表的な特定地区を重点的に整備したいということだと地区が限定されてしまう。地域を限定せず、現状にこだわらないで、満遍なく親水空間をうまく利用するという考え方であるべきである。

- ・10年間の提言なので、今の視点にあるように、それぞれの特色を活かして部分部分を整備するという提言が現実的だと思う。
- ・現実的ということに拘ってしまうのではなく、今までの発想と違うことを提言したい。
- ・総体的には原案を活かして、出来たら3種類の水辺の特性を活かす、という意見をうまく盛込んでいただければ良いと思う。

○渋谷コーディネーター

- ・基本的には水辺空間の全部を対象に原案の将来像を目指すということにしたい。その上で、「現状及び問題認識」の中に水辺の3つ性格を指摘することとしたい。

○参加者

- ・それは、「河川や運河は江東区を象徴する魅力的な資源です」の説明文に追加すると良い。
- ・水辺の問題は区だけで解決できない。他区との関係もあるし、国や都と一緒に協調しながらやっていかないとなかなか進まない。

○事務局

- ・水辺に関して何が最も重要かという点について、二つの意見が出た。一つ目は、多様な機能を総合的に利用することが重要とする意見、二つ目は、近隣区や都とを強調して行なうことが重要とする意見。両方の意見を書くか、どちらかに絞るか。

○参加者

- ・今回は江東区の提言なので、他区とのことはあまり強調する必要はないと思う。

○渋谷コーディネーター

- ・なにが最も重要かということについては、最初に意見があったように、「水辺の多様な機能を活かすまち」という将来像の趣旨を何らかの言葉にして記述することとする、

## ②防災

○参加者

- ・今まで討議をしたことは大体まとまっている。なにが最も重要か、ということについては、防災に対する区民の意識が十分でない。このため、区民の意識を高めるために、重要な点は、\*防災都市宣言をする、\*防災訓練の実施、この二点である。

○渋谷コーディネーター

- ・最も重要なのは「区民の防災意識を高めること」である、とすると、原案で一番目に記述されている「■区民一人一人が日頃から防災意識を高め～」を最も重要なことと位置付けるということとしたい。
- ・区民の意識がないという点については、子供も同様である。区立小学校・中学校でも、もうちょっと防災教育をやった方が良いと思う。

○渋谷コーディネーター

- ・そういう意味では、「区民一人一人」というよりも、「子供からお年寄りまで」といった

表現にし、学校ごとに防災訓練を実施するなど具体的な政策に結びつけることとしたい。

### ③交通

#### ○参加者

- ・「人口増加に伴うニーズの変化に対応できていません」の項目の説明の中にある「地下鉄の通勤ラッシュを解消する必要」というのは、具体的にどうするのか。例えば列車の本数を増やすことなのか、それとも区内の事業所に時差通勤、フレックスタイムなどを導入してもらおうといったことか。

#### ○渋谷コーディネーター

- ・そういった方向性を見据えての問題提起であるが、ここではそこまで具体的なことに言及するのではなく、通勤ラッシュを解消する方策を考えるべし、という提言になります。

#### ○参加者

- ・歩道のバリアフリー化の記述があるが、同時に橋を低くしたい。そうしないと歩行空間の連続性が確保されない。
- ・橋の部分を高くしたのは水上交通のため。水上交通と歩行者とどちらを優先するか。
- ・低い船を導入するとか工夫の余地はあるので、橋を低くする提言はして構わないと思う。

## (2) 江東区が目指すべき将来像の表現について

### ①水辺

#### ○渋谷コーディネーター

- ・先程来の議論で水辺については「水辺の多様な機能を活かすまち」でよい。
- ・「江東区が目指すべき将来像」とあるが、これは「江東区民が目指す将来像」という表現でなくてよいか。

#### ○参加者

- ・区民から江東区はこれを目指してくださいという提言。あくまで江東区が目指す将来像を区民が提言していくのだから、この表現のままで良いと思う。

#### ○事務局

- ・この未来会議は、江東区に対して区民の視点から提言をいただくものなので、今の方のご意見の通りです。

### ②防災

#### ○参加者

- ・将来像はこの言葉で結構だが、中の説明文が非常に甘い言葉であり、条例を作るなどもっと強い内容を打ち出すべきである。

#### ○渋谷コーディネーター

・それは将来像の記述についてか、具体的な事業のアイデアについてか。

○参加者

・条例は非常に重要なので、将来像の説明文の中には記述すべきである。

### ③交通

○渋谷コーディネーター

・これは、現状と問題認識との対応でいうと、将来像の表現に「区民最優先の」を加え、「区民最優先の公共交通が充実したまち」の方がよい。

## (3) 江東区が目指すべき将来像の説明文について

### ①水辺

○参加者

・3つの水辺が上手く網羅されていて良い。水上交通も、東京湾のことにも触れられている。

### ②防災

○参加者

・「震災」という表現は、震災だけとはかぎらないので、水害も含めて「災害」に修正してほしい。

・先日の江東区の環境審議会で区長が「皆さんの地球温暖化に対する考え方が甘い」というっていた。

○渋谷コーディネーター

・この会の1回目でも環境の話全体を通してやらなくて良いかと指摘があった。防災だけの問題としてではなく、この3つのテーマを通して「環境」に言及すべきである。

○参加者

・「未曾有の～」という表現があるが、表現が強すぎるので「私たちが体験した事のないような大きな災害」とした方がよい。

・冒頭で発言した条例の話は、非常に大事な事ですから、ここに一言入れていただいた方がよい。

○渋谷コーディネーター

・さらに、区民の防災意識を高めることが重要なので、この冒頭に文章にそういった趣旨を記述した方がよい。

### ③交通

○参加者

・「未来都市」という表現には違和感がある。

- ・単に、新しい市街地という言い方が良い。
- ・将来像の表現が、「区民優先のどこへでも行ける公共交通が充実したまち」では長いと思う。公共交通が充実しているということは支障なく行けるということなので、「区民優先の公共交通が充実したまち」にするべきである。
- ・「また、歩道の段差や障害物」という表現について、「無電柱化」にも言及してほしい。

#### (4) 将来像の実現に向けた取り組みの方向性と具体的事業のアイデア

##### ①水辺

###### ○渋谷コーディネーター

- ・私から一つ問題提供させて頂きたい。オランダでは、子供のうちから洋服を着たまま水泳を教える。これは水辺空間を親しませることは事故が起こる可能性が高いから、助かる方法を学校で教えるらしい。江東区でもこの提案を試してみたいと考えている。

###### ○参加者

- ・今の提案を「区民が自然に関わる機会の創出」で、安全教育の一環として入れると良い。
- ・「■親水空間の整備を進めます」の整備を「開発」に変えてもらえないか。整備だと言葉が弱い気がする。

###### ○事務局

- ・表現的には強いかどうかは別として、開発も整備に含まれていて、整備はより大きな概念である。開発とは、なかったところに新たに生み出すということである。
- ・既存のものを更に機能をよくしたいとか、そういうことも含めた、発展的な整備ということではよいのではないか。

##### ②防災

###### ○参加者

- ・具体的事業のアイデアの中に、条例の策定と禁止事項の策定というのを入れた方が良い。例えば、区長が防災警報を発した場合の体制や禁止事項などを定めるものである。
- ・また、この具体的事業のアイデアの中で、「防災ハンドブック」と「合同訓練」の順番を変えた方が良い。それから合同訓練の実施について、今やっている訓練は全員参加出来ないで、全員参加出来る様な訓練を区の方で考えて頂きたい。

###### ○渋谷コーディネーター

- ・将来像に合わせて、具体策の中の「震災」という言葉は、「災害」に全部直す。

###### ○参加者

- ・防災訓練が若い方からお年寄りまで出来ない理由は、ライフスタイルに問題があるので、「ライフスタイルに応じた実施の工夫」といった表現を入れてほしい。
- ・「防災都市宣言の実施」、「防災ハンドブックの配布」の目的が「震災対策に関する情報発

信」になっているが、本来の目的は「区民の防災意識の向上」である。

- ・情報発信の内容について、CATVの活用について言及すべきである。

○渋谷コーディネーター

- ・以上の点についてはすべてご指摘の通り原案を修正することとする。

## 5. 次回の進め方

○渋谷コーディネーター

- ・次回は、積み残しとなった「3. 将来像の実現に向けた取り組みの方向性と具体的事業のアイデア」について引き続き議論を行うこととする。

○事務局

- ・未来会議からの提言書を受け、基本構想等の検討を進めていく基本構想審議会が今後設置される予定である。審議会のメンバーは、区議会議員や学識経験者、区民および区内各種団体の構成員、関係行政機関の職員から構成されるが、区民および区内各種団体の構成員の5名は、未来会議の各分科会から1名ずつ参加していただきたいと考えている。
- ・各分科会から選出する1名については、基本構想審議会委員全体の構成等を踏まえながら、人選については区に一任していただきたいと考えているがいかがか。(異議なし)

(以上)